

## 二宮敏行先生のご逝去を悼む - 研究と講義のスタイル -

木村 薫 (新領域創成科学研究科 教授)

二宮敏行名誉教授(物理学専攻)は、ご療養中のところ2007年4月20日、享年76歳にて逝去されました。先生は、1953年に東京大学工学部応用物理学科を卒業、1958年に博士課程を修了されました。その後、同大学物性研究所助手を経て、1963年に東京大学理学部物理学科助教、1981年に同教授に昇任され、1991年に停年により中央大学理工学部教授に転任されるまで、本学部物理学教室において研究と教育に尽力されました。

先生のご研究は「固体におけるトポロジカルな乱れ」を統一テーマとされ、結晶中の転位から、アモルファス固体、準結晶へと展開されました。先生の研究スタイルの最大の特徴は理論と実験の両立でした。ご自身は紙と鉛筆による理論研

究を好まれましたが、研究室ではさまざまな実験手段を用いた実験研究やコンピュータを用いたシミュレーション研究も指導されました。原子の集団運動を記述する転位座標を導入し導出された「フラタリング機構」は先生の代表的なお仕事です。結晶に転位を高密度に導入してアモルファス構造のモデルを構築されました。また4面体と8面体のパッキングとしてアモルファス金属の構造を記述する提案はたいへん独創的なものでした。ペンローズタイルを理想アモルファス構造として捉えようとされましたが、このタイルの特徴をもつ物質が準結晶として発見されたのはたいへんな驚きでした。

先生は常に緻密に考えられ、講義は黒板の端から端まで使って完結させるひじょう



■ 故・二宮敏行名誉教授

に明快なものでした。私は、この先生なら物理を分からせてもらえると思い研究室を選びました。先生の講義ノートは、現在の私の講義の基になっています。先生は50代でパーキンソン氏病を発病され20年以上頑張られました。数年前からは車椅子でしたが、頭脳は明晰で最後まで紙と鉛筆を使って理論計算されたメモが残っています。私がお預かりしながら、忙しさにかまけて検討できずにいる先生との共著論文があり、たいへん申し訳なく思っております。先生のご冥福を、心からお祈り申し上げます。

## 人事異動報告

所属	職名	氏名	異動年月日	異動事項	備考
生化	助教	眞田 佳門	2007.4.15	辞職	大阪大学大学院医学系研究科准教授へ
化学	准教授	磯部 寛之	2007.4.30	辞職	東北大学大学院理学系研究科教授へ
生化	助教	清水貴美子	2007.5.1	採用	

## 東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

(2007年4月、5月)

(※)は原著が英文(和訳した題名を掲載)

種別	専攻	申請者名	論文題目
<b>2007年4月23日付学位授与者(1名)</b>			
課程博士	化学	仲谷 博安	イヌ・ミルク・リゾチームのフォールディングとアンフォールディングの平衡論と速度論(※)
<b>2007年5月21日付学位授与者(3名)</b>			
論文博士	物理	白岩 俊一	電子バーンシュタイン波による球状トカマクプラズマの計測と加熱の研究(※)
論文博士	地惑	植竹 富一	堆積盆地構造が地震動に与える三次元効果-足柄平野の強震観測記録に基づく検討-
論文博士	化学	半村 哲	遷移金属クラスターイオンの気相反応とサイズ依存性(※)
<b>2007年5月31日付学位授与者(4名)</b>			
課程博士	地惑	白井厚太郎	生物源炭酸塩の微量元素変動(※)
課程博士	生科	木矢 剛智	ミツバチのダンスコミュニケーション能力の神経基盤に関する研究
課程博士	生科	関水 康伸	先天性甲状腺機能低下症モデルメダカ <i>c119</i> の解析(※)
課程博士	生科	中橋 渉	変動環境下での社会学習における同調伝達の進化(※)

## 木曾観測所一般公開のお知らせ

木曾観測所所長 中田 好一（附属天文学教育研究センター 教授）

毎年夏休みに恒例の木曾観測所と名古屋大学太陽風観測所の施設公開を2007年8月4日（土）13時から21時まで行います。当日の昼間は（1）望遠鏡とドームはどんな風に動くの？、（2）望



■ 図1：シュミットドームでの講演会

遠鏡なら昼間でも星が見えるって本当？、（3）赤外線で見える不思議な世界、（4）太陽黒点は本当に黒いのかな？、という多彩なアトラクションがあり、さらに（5）シュミット望遠鏡が見た宇宙という天体写真の展示も行います。

夕方は天文講演、夜間には天体観望会を行います。木曾の真っ暗な夜空に横たわる天の川はたいへん印象的です。観測所は木曾福島駅から10キロ、車で約20分です。近くに人家がありませんから飲食物は各人でご用意ください。



■ 図2：夜の天体観望会

詳しくは下記ホームページをご参照ください。

<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/kisohp/>  
問い合わせ先：東京大学木曾観測所  
TEL：0264-52-3360

## あとがき

理学系研究科・理学部ニュースの7月号が完成いたしました。これまでのニュースとは趣を変え、今号では学生の方々からも多くの寄稿をいただいています。とくにESSVAPの参加者の方達には、プログラムに参加しての感想を全員から寄せていただきました。

“理学は世界のものだ”。標準的な理学系の研究者は、いつごろそれに気付くのでしょうか。最初に国際学会に参加したときでしょうか。それとも、国際誌に論文が掲載されたときでしょうか。少し違う気がします。そのような

折に覚えるのは、“自分の競争相手は世界だ”，といった、もう少しせば詰まった感覚である気がします。“理学は世界のものだ”は、それよりも気宇の大きさを感じさせる言葉です。

自分の学生時代にこのようなプログラムがあり、今よりすこしだけ感性がみずみずしいときに理学の世界性を感じとることができていたならば・・・この編集を通して、そんなふうを考えてしまう自分を発見し、少しだけ落ち込んでしまいました。

上田 貴志（生物科学専攻 准教授）

第39巻2号

発行日：2007年7月20日

発行：東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

編集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会 (e-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp)

牧島 一夫（物理学専攻）maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

横山 央明（地球惑星科学専攻）yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp

上田 貴志（生物科学専攻）tueda@biol.s.u-tokyo.ac.jp

米澤 徹（化学専攻）tetsu@chem.s.u-tokyo.ac.jp

渡辺 正昭（庶務係）mwatanabe@adm.s.u-tokyo.ac.jp

加藤 千恵（庶務係）c-kato@adm.s.u-tokyo.ac.jp

広報室：

横山 広美 yokoyama@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP担当：

柴田 有（ネットワーク）yuu@adm.s.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン：

大島 智（ネットワーク）satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

印刷・・・・・・・・・・三鈴印刷株式会社